◇ 11月の天文暦 ◇

日	時	記事
3	21	土星　月の 4°S 通過
5	13	**望**
7	17	立冬　(太陽黄経 225°)
8	18	月　最遠
13	17	**下弦**
16	18	木星　月の 0°.4N 通過
20	17	**朔**
21	9	月　最近
22	14	小雪　(太陽黄経 240°)
27	8	**上弦**

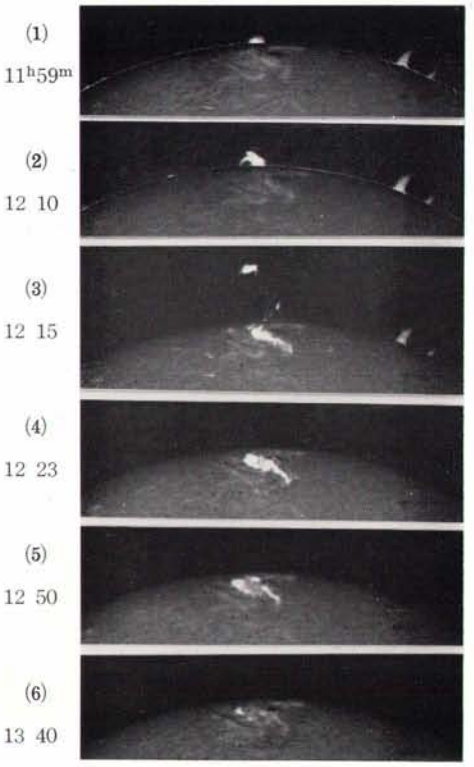
最近の珍しいフレア

大きなフレアが，その発生後にサージ状プロミネンスを噴出する現象は割合多く観測されているが，フレアの発生以前に，プロミネンスが上昇活動を開始した例は余りない．

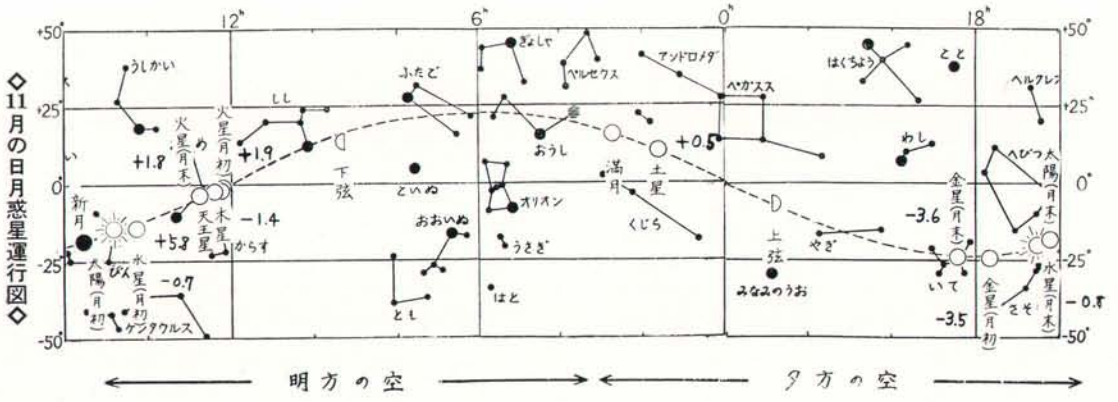
右の写真は8月3日太陽東側の縁近くのH型黒点群に発生した，重要度3のフレアの時間的変化を示すモノクロマティック・ヘリオグラフ（東京天文台）の記録で，(1) (2) (3) は太陽面現象の写真とプロミネンスの写真とを合成したものである．

写真の (1) はフレアの発生前まだ太陽面上にもプロミネンスにも変化が起っていない時の状態を示している．フレアは12時15分に発生したが，その約 10 分前頃から画面の中央にあったプロミネンスがゆっくり活動を始めた．そして，プロミネンスはフレアの発生と同時に急激に活動が刺激され，(3) のようにループ状プロミネンスとなって秒速 400 km 以上の速度で 10 数万 km の高さに上昇したが，12時25分には消えさって見えなくなっていた．一方フレアは12時23分最大光度に達している．

一般にフレアの発生に伴なって起こる現象には，ループ状プロミネンス，サージ状プロミネンス，暗条の消失，



1968年8月3日重要度3のフレア

フレア状羊斑(前号本欄参照)などがあるが，これらはいずれもフレア発生後の現象であって，フレア発生前にそのまえぶれとなるような現象については，あまりよく分かっていない．

今回のように，フレアの発生にさきがけてプロミネンスの活動が見られるためには，比較的大きなフレアが太陽の縁辺近くで発生しなければならないし，東京で重要度3といった大きなフレアが太陽の縁付近でみつかることは，太陽活動の最盛期を通じてもたかだか数個にすぎないので，なかなかつかまりにくいのであろう．しかし，この種の現象は，フレア発生の謎をとく一つの手掛りとして，重要なものと思われる．　(山口)